

成長戦略に海外強化

インドネシア地下鉄狙う

日特建設

日特建設は、14年度にスタートする3カ年の新しい中期経営計画「STEPⅢ」で描く成長戦略の一つに海外事業の強化を盛り込む。インドネシアの南ジャカルタ市に12年9月に開設した駐在員事務所を拠点に、同国で

計画が進む地下鉄プロジェクトに参画している日系ゼネコンからの工事受注を目指す。5年後を目標に「国内の1支店と同じ年間受注高40億円規模に育てていきたい」（中森保社長）考えだ。同社は、経営状況の改

る基礎工事の需要も拡大すると判断し、ジャカルタに駐在員事務所を置いた。現地スタッフを社員に登用し、日本で機械の操作や地盤改良などの技術を指導。「現地スタッフにつまぐ技術を伝承できれば、海外事業は伸ばしていける」（中森社長）とみている。

STEPⅢでは、橋梁や高速道路、新幹線などの老朽インフラの維持補修分野にも注力。既存技術をグレードアップしたり、組み合わせたりして対応していく方針だ。年間受注高は現行の550億～560億円規模を維持していく。

善に向けた中期経営計画「STEP」（全9カ年）を進行中。I（08～10年度）は目標を達成し、II（11～13年度）も順調に推移しているという。公共投資の増加などに伴い、「国内では今後5年は安定した工事量が見込まれる」（中森社長）として、この間に海外事業を本格化させる狙いだ。インドネシアは、急激な経済成長を背景に、地下鉄や道路、上下水道などのインフラ整備が急速に進む。同社が得意とす